

- 1 教育事業名 「教員免許状更新講習」
～自然体験活動から子供達の生きる力を～
- 2 ねらい 自然体験活動の意義を理解し、活動に伴う安全管理の意識を高めるとともに学校における体験活動の指導法の工夫改善に資するなど、教員の資質向上を図る。
- 3 期 日 平成26年8月20日（水）～22日（金） 2泊3日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 50名
- 6 参加人数 46名
- 7 参加者内訳 小学校13名・中学校名・高校23名・特別支援2名
(男性26名 女性20名) (県内32名 県外14名)
- 8 講 師 川添貴司 氏 (沖縄県生涯学習振興課生涯学習推進センター社会教育主事)
講義「学校教育の現状と課題」
平野貴也 氏 (名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科准教授)
講義「体験活動の意義と学習指導要領」
北見靖直 氏 (国立青少年教育振興機構 教育事業部指導主幹)
講義「体験活動の安全確保と安全指導」
講義・実習「体験学習の指導法」「体験活動とフィードバック」
赤嶺智郎 氏 (国立沖縄青少年交流の家 主任企画指導専門職)
実習「レクリエーションの基本と実技」
実習「体験学習の指導法」

9 実施プログラム

		9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	15:00	17:00	19:00	21:00
一 日 目		那覇市泊港 とまりん集合	フェリー とかしき	開 講 式	昼食	講義 「学校教育の現状と課題」	講義 「体験活動の意 義と学習指導 要領」	夕 食 等	実習「体験活動 の指導法①」 レクリエーション の基本と実技	
		8:30	9:00		12:00	13:00	15:00	15:30	19:00	
二 日 目	朝 食 移 動	実習「体験活動の指導法③」 ～マリン活動～			昼食	講義 「体験活動の指導法②」 体験活動の安全確保と 安全指導	実習「体験活動の指 導法③」 ～野外炊事～	清 掃 移 動		
		9:00	9:15		11:15	12:00	13:00	14:00	16:00	17:10
三 日 目	朝 食 清 掃	実習「体験活動の指導法④」 体験活動とフィードバック			グ ル ー プ 発 表 会	昼食	履修認定 試験	閉 講 式	フェリーとか しき	講義「体験活動の指導法②」 体験活動の安全確保と安全指導

10 事業の様子



笑顔のレク



マリン活動 セイルオン！



炊事活動 班の仲間で



研修の集大成・グループ発表会

11 エピソード（参加者・保護者の声や観察より）

- ・ 体験活動を行いながら指導者としての心構えや子供達の楽しませ方を知る事ができた。
- ・ 体験活動の意義や留意点等が学べ、計画から実践までの見通しが持てた。
- ・ 講師の先生方が素晴らしく引き込まれた。環境も素晴らしく自分の人間力を回復できた。
- ・ 野外体験学習は教師の知識や技術が高くなければ難しいと思っていたので、今回の研修で色々なことを学び少し自信がついた。
- ・ 自分自身が沖縄の自然で元気が出たし、学びへの動機づけをされた。いろんな人とも出会えてうれしかった。
- ・ 体験活動を学校現場で取り入れるのが難しくなっている中、どうしたらいいかというのをもっと議論したかった。

12 担当者所見

【成果】

- ・ エピソードに現れているように、講師の先生方のご尽力と受講生の意欲的な参加により本事業の目的をほぼ達成することができたように思う。研修の最終日に学習の成果として、学校で生徒に自然体験宿泊学習のオリエンテーションを行うという設定でグループごとに発表を行ってもらったが、どのグループの生き生きと、子供達への楽しさと安全への意識を高める内容ですばらしものであった。
- ・ 過去の本事業の取り組みの成果が口コミで全国的に広がり、申込み受付の初日で定員が埋まるほど評価の高い事業となっている。

【課題】

- ・ 全国各地から参加されている受講者どうしの情報交換や意見交換をより深められるような、時間や場の設定の工夫が必要である。
- ・ 日程で日程がハードになってしまいがちなので、よりスムーズな運営の工夫が必要である。